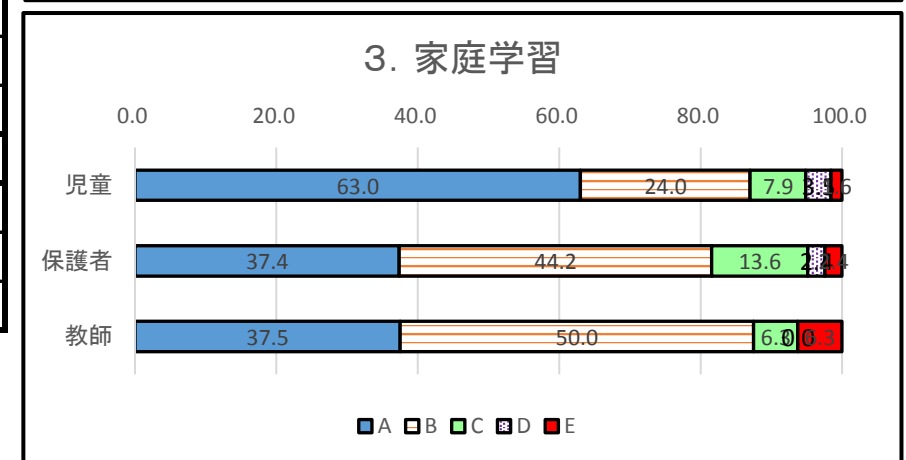
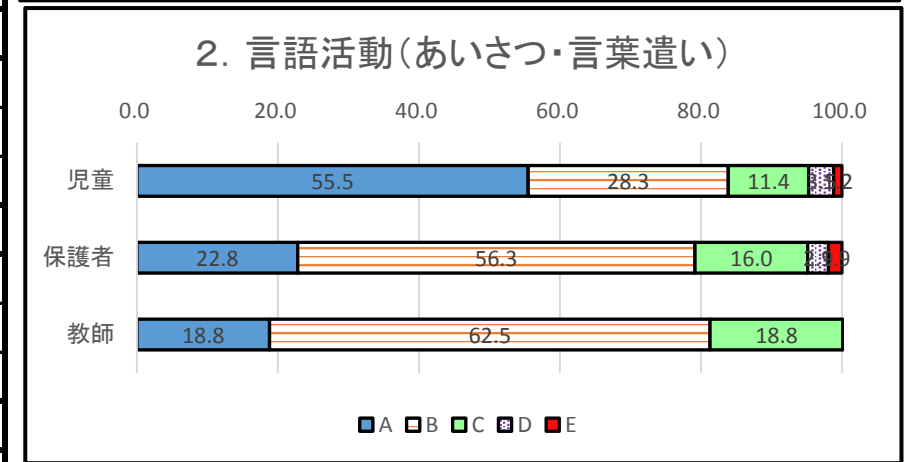
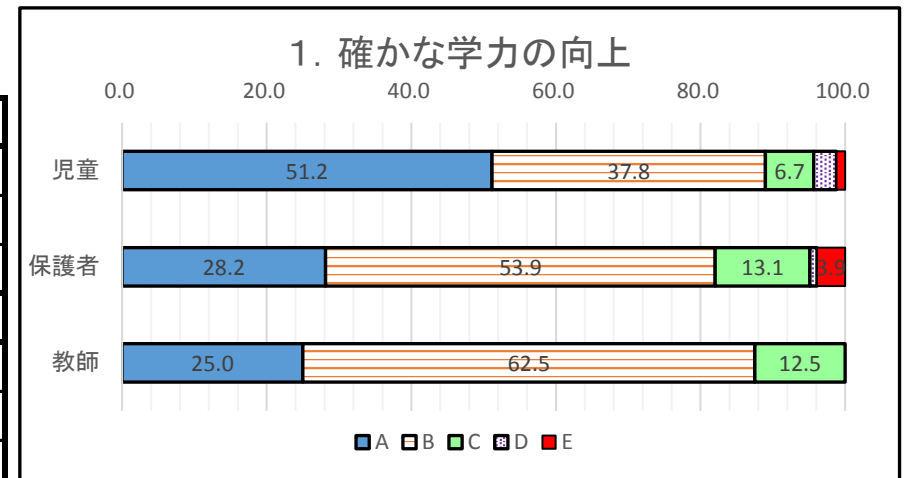


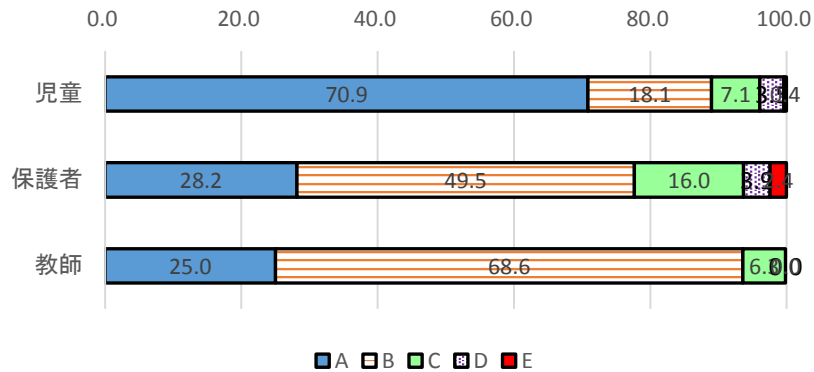
平成28年度児童・保護者・教師の三者比較

A達成 Bおおむね達成 Cやや不十分 D不十分 E判断できない (%)

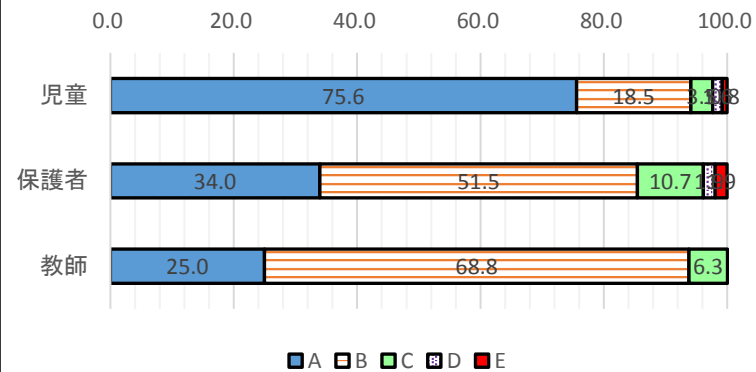
| | | A | B | C | D | E | 未記入 | |
|---|-----|------|------|------|-----|------|-----|-----|
| 1 | 児童 | 51.2 | 37.8 | 6.7 | 3.1 | 1.2 | 0 | 100 |
| 1 | 保護者 | 28.2 | 53.9 | 13.1 | 1.0 | 3.9 | 0 | 100 |
| 1 | 教師 | 25.0 | 62.5 | 12.5 | 0.0 | 0.0 | 0 | 100 |
| | | A | B | C | D | E | 未記入 | |
| 2 | 児童 | 55.5 | 28.3 | 11.4 | 3.5 | 1.2 | 0 | 100 |
| 2 | 保護者 | 22.8 | 56.3 | 16.0 | 2.9 | 1.9 | 0 | 100 |
| 2 | 教師 | 18.8 | 62.5 | 18.8 | 0.0 | 0.0 | 0 | 100 |
| | | A | B | C | D | E | 未記入 | |
| 3 | 児童 | 63.0 | 24.0 | 7.9 | 3.5 | 1.6 | 0 | 100 |
| 3 | 保護者 | 37.4 | 44.2 | 13.6 | 2.4 | 2.4 | 0 | 100 |
| 3 | 教師 | 37.5 | 50.0 | 6.3 | 0.0 | 6.3 | 0 | 100 |
| | | A | B | C | D | E | 未記入 | |
| 4 | 児童 | 70.9 | 18.1 | 7.1 | 3.5 | 0.4 | 0 | 100 |
| 4 | 保護者 | 28.2 | 49.5 | 16.0 | 3.9 | 2.4 | 0 | 100 |
| 4 | 教師 | 25.0 | 68.6 | 6.3 | 0.0 | 0.0 | 0 | 100 |
| | | A | B | C | D | E | 未記入 | |
| 5 | 児童 | 75.6 | 18.5 | 3.5 | 1.6 | 0.8 | 0 | 100 |
| 5 | 保護者 | 34.0 | 51.5 | 10.7 | 1.9 | 1.9 | 0 | 100 |
| 5 | 教師 | 25.0 | 68.8 | 6.3 | 0.0 | 0.0 | 0 | 100 |
| | | A | B | C | D | E | 未記入 | |
| 6 | 児童 | 68.9 | 20.1 | 2.4 | 2.8 | 5.9 | 0 | 100 |
| 6 | 保護者 | 23.3 | 48.1 | 11.7 | 2.9 | 14.1 | 0 | 100 |
| 6 | 教師 | 37.5 | 56.3 | 0.0 | 0.0 | 6.3 | 0 | 100 |



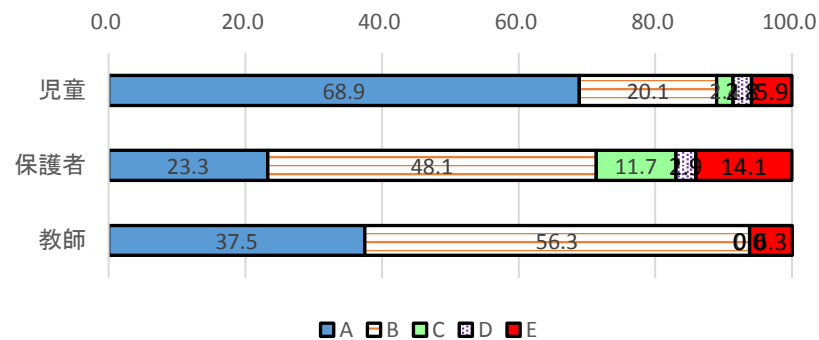
4. 健康安全(体力向上)



5. 学校生活



6. 信頼関係(同一步調)



全てのアンケートでA+B（肯定的な意見）の割合が80%以上なら、だいたい満足のいく結果とすることができる。

◎児童アンケート

項目5で94.1%が肯定的な意見となり、多くの子ども達が自信持ってみんなと仲良くしている言える。また、項目6で5.9%の人が「分からない」と答え、高学年では9.2%の人が「分からない」と答えている。最も否定的な意見が多いのが、項目2で14.9%の人が「できていない。ややできていない。」と答えている。特に高学年では、24.5%の人が「できていない」と答えている。これは、恥ずかしさから元気にあいさつができなかったり、敬語の学習をしたが、目上の人に使えていないという理由が考えられる。また、元気なあいさつを自信持って言える子の割合を70%以上とするという数値目標を掲げたが、55.5%にとどまったので、次年度も引き続き70%以上とするという数値目標を立てる。

◎保護者アンケート

項目6で71.4%しか肯定せず、14.1%の人が判断できないと答えた。特に高学年の保護者は、68.8%しか肯定しなかったが、これは学校としての発信説明不足が原因だと考えられる。また、項目4では77.7%しか肯定しなかった。特に高・中学年の保護者は7割強の肯定的な意見にとどまった。これは、マラソン大会の廃止に係わって、体力向上に取り組めていないと感じた結果だと思われる。

◎三者の比較から

今年度の傾向として、児童と教師の結果がほぼ同じ結果だった。ただ、肯定的な意見でも、児童は「自信持って達成できた(Aと答えた)」割合が多いのに対し、教師は「やや達成できた(Bと答えた)」割合が多かった。項目6と項目4で、保護者の肯定的な意見の割合が低い。学校として「チーム清水」として、全校一丸となって取り組んでいることの情報提供不足だった。また、ドッジボールコートを休み時間に使っていることや体力テスト結果から得た体力改善メニューに取り組んでいることの情報発信にも工夫が見られなかったため、取り組んでいることを保護者に知ってもらう工夫が必要である。